

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★

## チャールズ・エンジェル フルスロットル

配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

2003 (平成15) 年7月24日鑑賞

Data

監督: Mc G (マックジー)

出演: キャメロン・ディアス/ドリ

ュー・バリモア/ルーシー・

リュー/デミ・ムーア

### 👁️👁️ みどころ

賢くて美人、スタイルがよくてセクシー、そして男勝りの格闘技、こんな3人のエンジェルたちの活躍を描く『チャールズ・エンジェル』の第2作。理屈は不要。ストーリーも不要(?)。ナタリー、アレックス、デュランの3人のエンジェルたちの魅力に加えて、今回は、先輩エンジェルとして、何とデミ・ムーアが登場。40歳とは思えないすばらしい肢体は見モノだよ・・・。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

#### <チャールズ・エンジェルとは?>

「グッド モーニング エンジェル!」とスピーカーから語りかける声に対して、「グッド モーニング チャーリー!」と返す3人のエンジェルは第1作と同じナタリー (キャメロン・ディアス)、ディラン (ドリュー・バリモア)、アレックス (ルーシー・リュー)。彼女たち3人は、チャールズ・タウンゼント (通称チャーリー) 探偵事務所のエージェンツだ。初代のエンジェルから何代か入れかわっているが、3人一組というチーム編成はかわらない。そして、チャールズ・タウンゼント探偵事務所の管理・運営を行うのは、第1作はジョン・ボスレー (ビル・マーレー) だったが、今回はその弟のジミー (バーニー・マック)。

「昔むかし、3人のとても個性的な少女たちがいました。3人はそれぞれとても個性的な女性へと成長しましたが、たった3つだけ共通点があります。3人とも賢いこと。3人とも美しいこと。そして3人とも、わたしのために働いていること。わたしの名は、チャーリー。」

この映画に登場するこの語りは、TV版『チャールズ・エンジェル』のモノローグだ。

1976年から1981年にかけて米ABCでオンエアされたオリジナルTV版『チャーリーズ・エンジェル』は大人気を博した番組。日本版でいえば、かつてTVで一世を風靡した『プレイガール』のようなものだろう。ちなみに『プレイガール』は近時、佐藤江梨子ら若手女優の出演で映画化されているが、人気はいまひとつ・・・。

### <魅力は3人の美女のキャラクター>

アメリカのTV版『チャーリーズ・エンジェル』が日本でオンエアされた時のタイトルは『史上最強の美女たち!チャーリーズ・エンジェル』。もちろん「つくりモノ」だから可能なわけだが、最高に美しく、カッコよくて、セクシー、そのうえに最高に強く、知的で、コミカル。こんなエージェントを雇えばどんな難事件でもこなせるはず。チャールズ・タウンゼント探偵事務所が大はやりなのも当然だ。

2000年に公開されて大ブレイクした映画版『チャーリーズ・エンジェル』に続いて、本作『チャーリーズ・エンジェル フルスロットル』でも、チャールズ・タウンゼント探偵事務所のエンジェルたちは大活躍。秘密の隠された2つの指輪をめぐる、さまざまな敵と華麗に戦い、見事に目的を達成する。しかしこの映画に関しては、そんなややこしいストーリーはどうでもいい。美女3人の活躍を楽しめばいいわけだ。

### <本作は美女「4人」の大サービス>

ナタリー、ディラン、アレックスの3人のエンジェルの活躍劇の楽しさは当然だが、本作では先輩エンジェルであったマディソン（デミ・ムーア）が登場。しかもこれが何と、敵役としての登場だ。デミ・ムーアは、あの大俳優ブルース・ウィリスとの結婚・離婚を経験した美人女優で、『幸福の条件』（93年）、『素顔のまま』（96年）、『G. I. ジェーン』（97年）、『薔薇の眠り』（00年）等に主演した私の大好きな女優の1人だ。特に、男性兵士と同じ条件での過酷な軍事訓練に挑戦するため、髪を切り、筋力をつけ、徹底的な筋肉改造をする役を見事にこなした『G. I. ジェーン』は印象に残る。本当に顔だけのキレイな美女。

もともと、彼女は1962年生まれだから、もはや40歳過ぎ。しかし彼女はこの映画に出演し華麗なエンジェルを演ずるため、4800万円をかけて徹底した整形と肉体改造をしたとのこと。そのお蔭で（？）で、黒いビキニ姿をはじめ、そのスタイルやファッション、そして3人の正義のエンジェルたちとの格闘シーンも実にキマっており、魅力タップリ。さすがハリウッドのプロ女優はすごい、と感心させられる。もともと悪役だから、最後は殺されるが、さすがに殺され方にも気がつかわれていることがわかる・・・。

### <3人のエンジェルについての坂和流解剖>

この映画はストーリーはどうでもいい。3人の美女のカッコいい活躍ぶりを楽しめばいい

い。しかし3人のエンジェルはそれぞれのキャラがあり、好き嫌いはい人それぞれ。また「男の特権」として、勝手にアレがいい、コレがいい、ここがスキ、あそこがスキ・・・と言いたい放題が可能だから、ここで若干、スケベ親父の坂和流解剖を一席・・・。

#### (1) ナタリー (キャメロン・ディアス)

1972年生まれ彼女の彼女も今や31歳になった。最新作は、あの『ギャング・オブ・ニューヨーク』(02年)。この映画では何とも言えない、すばらしい演技を見せていた。彼女を一躍有名にしたのは、97年の『ベスト・フレンズ・ウェディング』だが、とにかくキレイだった。『チャーリーズ・エンジェル』のナタリーは、3人のエンジェルのリーダー格。頭の回転が早く、明るく、外向的だが、少しおっちょこちょい。格闘技は、本職(?)のアレックスに比べると多少劣るが、その足の長さは驚異的で、威力(魅力)十分。また、本作で見せるダンスシーンは圧巻。デミ・ムーアの黒のビキニ姿とキャメロン・ディアスの白のビキニ姿のどちらがいいか?皆さんの御意見を是非どうぞ!

#### (2) アレックス (ルーシー・リュー)

彼女は1968年ニューヨーク生まれだが、中国系の美女。努力を重ねて女優への道を切り開き、TVの人気番組『アリー my ラブ』(97~02年)へのレギュラー出演で注目を浴び、前作の『チャーリーズ・エンジェル』で大ブレイクした。彼女の格闘技は単なる演技ではない。役者修行の一環として、精を出して習得した格闘技だからホンモノだ。当然、前作と今回の『チャーリーズ・エンジェル』では、彼女の格闘技は三分一の比重でしか披露されないが、先日(7月22日)試写室で観た『パリスティック』(03年)では、主演として、本格的な格闘技を存分に発揮している。「カンフー」や「カリ」さらには棒術など、その身のこなしと武器の扱い方は超一流。スタントマンを使わず、ほとんど自分でやっているのも彼女の特徴だ。

#### (3) ディラン (ドリュー・バリモア)

彼女は1975年生まれだから、3人のエンジェルの中では最も若い。スクリーン上でも他の2人と比べて、その若さはありありと分かる。しかしちょっと太め。時としてもものすごい美人に見えるが、時々はその「ネエちゃん」と同じに見えてしまう(失礼・・・)。彼女は、何と8歳の時にあのスティーブン・スピルバーグ監督の名作『E. T.』(82年)に子役として出演したが、パンフレットによると、「早すぎる栄光に溺れ、複雑な家庭環境もあって、すれっからの袋小路にはまっています。9歳で酒を覚え、10歳でマリファナ、12歳でコカインに手を出し、14歳で自殺未遂・・・」と転落の一途をたどったとのこと。しかし1999年にプロデュースを手がけ自ら主演を演じた『25年目のキス』がヒットして仕事に復帰し、『チャーリーズ・エンジェル』に抜擢され人気沸騰だ。彼女は、先日(7月11日)試写室で観た『コンフェッション』(03年)では、アメリカのTV界を席卷した伝説的プロデューサー、チャック・バリスの恋人として実にいい味を出した演技をしている。『チャーリーズ・エンジェル』での格闘技はルーシー・リューに任せて、『コ

ンフェッション』のような味のある演技の方が彼女には向いているのでは・・・と私は思っているが・・・。

2003（平成15）年7月26日記